

スウェーデン語への手引

藪 下 紘 一

はじめに

スウェーデン語(以下S V.)は高々約830万の人口を持つ国の言語であるが、その使用範囲はもう少し広い。つまりフィンランドではフィン語と共にS V. が公用語になっているし、ノルウェーでもかなり通じる。そしてデンマークのテレビではS V. の放送がチャンネルあって、彼等には耳慣れている。然し私の体験ではS V. で話しかけて返ってくるデンマーク語がよくわからなかった。筆者のS V. の能力不足のせいであろう。そして米国の日系人のように、多くのスウェーデン人が入植(ミネソタ州その他)した所では、S V. と英語の両方が話されているようだ。

以下に記した文献は総て筆者の持っているものであるが、「入門」ということになればこれぐらいで良いのではなかろうか。

A. 入門書

1. Teach Yourself Books SWEDISH, London 1969³

私なんぞ英語も又よくできない人間には読むのが大変だが、S V. と英語の両方の勉強になる。同系の言語同志であれば、ハハァーと思いながら読み進めていったものである。

2. 尾崎義：スウェーデン語四週間、大学書林、昭和42⁹

これは今では古典的になった。少し古いとも世間では言われるが、それ故に古いものを読む時にも大いに助かる。筆者は3度この本を読んだが、まだ完全には覚えきれないでいる。筆者が以前ストックホルムに滞在していた時、教室で質問されて、フッと口をついて出た答をしたところ、「大変良い返答だ」と言われたが、この本の中の文章だったのである。本書は今でも、そしてこれからもその生命を失うことはない。

3. 横山民司：スウェーデン語の入門、白水社、1978.

これは最も新しい入門書であるが、易しい文と文法が約3分の1で、更に易しい文章、そしてむづかしい文章へと進んでいる。別売テープがついているが、最初からノーマルスピードで、ついて行くのに大変だが、耳の訓練には良いのではなかろうか。今はこの

本から入っては如何かと思う。そしてA 2を手元に置いておけば尚良しというところか。

4. M. Holm a. M. Mathlein; SVENSK SVENSKA, Språkförlaget Skriptor AB. 1974

5. B. Holm a. E.N. Lindgren 編; SVENSK KURSEN 全2巻 Sthm. 1971⁸; 1980⁸

6. L. Bruz us a. U. Wallin; 1 svenska, Lund 1972

2 mera svenska 1971 (Lund)

3 ännu mera svenska (Lund) 1975

7. K. Godály a. U. Wallin; Övningskompendium svenska 全3巻 Lund 1982, 1976, 1979.

さて4～7は一長一短で、どれかを一つ持っていれば良いであろう。各れもスウェーデン国内で外国人にS V. を教える際に使われている。スウェーデン人の教師が教えるのだが、習う方も必死になって宿題もやらねばならない。又大人を対象としたものである。子供達は小学校から大学まで無料で入学できて、そこでS V. を習う。最初のうちは週に2時間位クラスを離れて特訓もしてくれる(小学校の場合)。

外国人には、S V. を教える所は種々あるが、Kursverksamheten(KV[ko:ve:])が一般的で、スウェーデンの各地にある。コースは下から1、2、3 a、3 b、4とある。3 bの終了と共に国家試験があり、それに合格しないと職にもつけないし、大学にも正式に入学できない。この様になっているのは40万とも60万ともいわれる外国人(出稼人や亡命者や大学生)がいるからである。彼等にとっては一つの単語、一つの言い廻しを覚えれば覚えるだけ生活が良くなるから、S V. の勉強には生活がかかっているのだ。

8. ここではスウェーデンの小学校で使う教科書を紹介しよう。

1. Svenska för dig. 1 2 3 , (Natur och Kultur 社)

2. Nu läser vi. A B C D E , (Almqvist o. Wiksell 社)

各れも小学校一年(7才)からのものである。又A 1にも書いたように英語と同じ語派で、かつ英語の影響の強い今日では、9才から英語の勉強がはじまる。(第2次大戦終了まではドイツ語が第一外国語であった。)

あと高等学校で使うものはぐっと大人びていて、大学での勉強へとつながって行くが、ここでは略す。

B. 辞書

1. 岡本康男編; スウェーデン語、文法・辞典・会話、北欧語研究会、昭和34年

これは恐らく日本で出たはじめての辞典であろう。文法・会話の部分がごくわずかのページ数で、辞書の部分が主である。

2. 松下・古城編; スウェーデン語小辞典、大学書林、昭和57年

松下氏はながくスウェーデンの日本大使館に勤めていた方だそうで、現地でのS V. の実践の中から生まれたもので、信頼度が非常に高い。

3. Langenscheidts Taschenwörterbuch, Schw.-Dt. Dt.-Schw. 1974¹²

筆者は分冊になっているものを使っているが、合本になったものも出ているかもしれない。発音も記されている。又用法も多く書いてあって、むつかしいS V. の前置詞の使い方がわかって助かる。ドイツ語から入られる方にはこれが一番であろう。

4. Svensk-tysk ordbok, Esselte studium, Sthm. 1980³

中型の辞典でスウェーデンで出版されたものだから発音は記されていない。用法はくわしい。これの姉妹編で、Tysk-svensk ordbokもある。

5. Modern svensk-tysk ordbok, Prisma, 1980²

4.より大型で机上版というところ。Modern---と銘打ってあるように新語ものっている。

6. Svensk-engelsk, Eng.-sv. ordbok, Läromedelsförlagen, 1965¹⁵

これは英語から入って行く人には便利である。(以下7. 8. も同様である。) 小型でB. 2. にあげたものとほぼ同じポケット版である。

7. O. R. Reuter; Sv.-English Dictionary, London 1966²

8. Modern svensk-engelsk ordbok, Sthm. 1980⁷

机上版。むつかしい発音にだけは発音記号がつけてある。これの姉妹版 Modern engelsk-svensk ordbokもある。

9. Th. Hammar; Svensk-fransk ordbok, Esselte, studium, 1979

フランス語から入って行く人には、これが大いに助かる。

10. Bonniers svenska ordbok, 1983

スウェーデン人から「トイレの落書もこれがあればわかる。」との発言があった。

11. Bertil Molde; Illustrerad svensk ordbok, Sthm. 1977

この1900ページ余の瑞々辞典があればたいいのものはわかってしまう。

12. ドイツの Grimm 兄弟に刺激されて今もポツポツと出版されている大辞典があるが、未だ完結していない。全部で何十冊になるのやら。

13. 上記の他に語源辞典や、svensk-danskとか、dansk-svensk ordbok等があるが略す。

C. 会話

1. これは今では古いと評価されている。然しS V. の発音の練習としては生命を失っていない。今のスウェーデンでは誰もが、どこでもHej!で朝昼晩の挨拶を済ませているが、上流社会ではやはり朝はGod morgon! God dag! God afton! と言っているとのことだし、T. V. でもニュースの時など、God aftonと語りかけて来る。

2. 横山氏の『入門』の別売テープは今日のS V. を習うときには大いに役に立つ。

3. 横山・山崎：標準スウェーデン会話、白水社、1982.

これにも別売テープがついていて、それと合わせて短文を暗記し、口を動かせばそれは現代S V. の良い練習となろう。短文の他に各章ごとに語彙集もついていて非常に助かる。

4. 松下正三：スウェーデン語会話練習帳、大学書林、昭和54年

これは日本人にS V. をスウェーデン人に日本語を教えるようになっていて、これな
んぞを第一のたたき台にして、C. 3. に入って行ってもよからう。

5. Langenscheidts Sprachführer Schwedisch

ドイツ語から入って行く人にはこれが一番良い。他にもドイツで出ているのかもしれ
ないが、これで充分だと思う。

6. Berlitz TYSKA

これはスウェーデン人がドイツ語を習う時のものだが、我々は逆利用できる。

7. Berlitz FRANSKA

これもスウェーデン人がフランス語を習う時に使うもの。フランス語に強い人は逆利
用できる。又私は持っていないが、BerlitzにはENGELSKAというのものもある。

8. Olle Kjellin : SVENSK PROSODI I PRAKTIKEN, Uppsala 1980

この本の著者は日本に5年留学していたことのある人で、スウェーデン社会研究所(在
東京)でS V. を教えた経験もある。スウェーデン人がこの通りに発音したテープがあ
れば尚良いのだが、残念だがそれはない。然し大体の所はわかる。

9. Collins Scandinavian Phrase Book, 1978

このS V. の所が使える。

D. S V. の歴史

1. G. Bergman; Kortfattad svensk språkhistoria, Sthm. 1972³

2. Svenska studier från runtid till nutid, Lund 1973

筆者は1.を読んでS V. の歴史の凡その所を知った。2. は様々の人が書いた論文を
集めたものである。

3. E. Noreen 編 ; Valda stycken, av svenska författare 1526-1732, Lund 1970

巻末にordlistaがついている。

4. S. Benson編 : FORNSVENSK LÄSEBOK, Lund, 1970

巻末には約80ページにわたってordlistaがついている。これや3. は古いものに興味
のある人に読んでもらいたし。

5. 数巻にわたる大部の「スウェーデン語史」というものもある。

おわりに

ここに文学の事も記せば良かったのかもしれないが略した。上記のものを読んだ後では
どんな文学書にも入って行けるからである。A. Strindbergだけではないこと、又児童文
学にも優れたものがあり、逐次邦訳されているが、原書で読みたくなってくるのも多い。
(例えば、Astrid Lindgrenの一連の作品。中でも、『Mio Min Mio(ミオよわたしのミオ)』
その他。日本でT. V. の番組になった『ニルスの不思議な旅(Nils Holgerssons underbara

resa genom Sverige)』は、Selma Lagerlöfの作品である。)